

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／工藤 慎一

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

言うまでもないことだが、学校現場での授業実践に不可欠なのは、教授すべき学問内容の豊富な知識と深い理解である。付け焼き刃の知識や理解では、教師としての資質に欠けると言わざるを得ない。自然科学分野の教師の育成においては、その点特に留意すべきであろう。バランスのとれた構成と盛り込むべき内容に過不足ない授業計画をたて、板書のみならず授業内容を効率よく伝える資料を作り、試験のみに頼らない多角的な成績評価を行うことによって、実力ある教師の育成を目指す授業とする。

2. 点検・評価

バランスのとれた構成と盛り込むべき内容に過不足ない授業計画をたて、板書のみならず授業内容を効率よく伝えるプリント資料を作り、試験のみに頼らない多角的な成績評価を行うことによって、実力ある教師の育成を目指す授業を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教室内セミナーや研究指導、論文執筆指導などを通じて、学生・院生の研究指導を熱意を持って行い、自然科学の最前線に触れさせることで、学生・院生の論理的思考能力の向上を目指す。

2. 点検・評価

教室内セミナーでは、先端的研究の紹介に努めた。また、指導した院生との共同研究もスムーズに進み、専門学会での発表(山口綾野・小汐千春・立田晴記・工藤慎一、キムネカミキリモドキの配偶成功と後脚アロメリー、日本昆虫学会第71回大会)等の成果をあげることができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

従来通り、「親の投資進化」に関する課題を中心に研究を推進する。特に、20年度まで科研費を受けて進めてきた「ヒラタヤスデの繁殖生態」ならびに21年度から科研費を受けて進めている「ツチカメムシ類の栄養卵生産と種子給餌」に関する研究成果を論文として国際学術誌に投稿することを目指す。

2. 点検・評価

ヒラタヤスデの繁殖生態解析法に関する論文1報が、国際学術誌に受理・発表された(Hasegawa, E., I. Yao, K. Futami, N. Yagi, K. Kobayashi & S. Kudo. Isolation of microsatellite loci from the millipede, *Brachycybe nodulosa* Verhoeff. Conservation Genetics Resources, 4 (1): 89-91)。また、現在科研費を受けて進めている研究課題「ツチカメムシ類の栄養卵生産と種子給餌」の成果の一部も、国際学術誌に受理間近の状態にある(Nakahira, T., K. D. Tanaka & S. Kudo. Maternal provisioning and possible joint breeding in the burrower bug *Adomerus triguttulus* (Heteroptera: Cydnidae)。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

学内委員会委員に就任した際は、教育部並びにコースと連絡を密に取って適切な活動を行う。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員として、教育部並びにコースと連絡を密に取って適切な活動を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

日本動物行動学会の運営委員として, 国際学会誘致や学術誌の改革など懸案事項の審議を積極的に進める。エディトリアル・ボードやレフェリーとして国際学術雑誌の編集に責任を持って携わり, 日本の基礎科学に対する国際社会の信頼を損なわないように努力する。

2. 点検・評価

日本動物行動学会の運営委員として懸案事項の審議を積極的に進め, 学術誌の抜本的改革案をまとめることができた。

Journal of Ethology誌のeditorial boardとして活動した。また, Proc. R. Soc. B.誌など国際学術誌のreviewに携わった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)